

アーツサポート関西 「上町台地現代アート創造支援寄金」 展覧会事業等に関する公募助成 募集要項

1. 募集期間

2022年5月9日～6月9日 当日消印有効

2. 助成対象期間

2022年8月1日～2023年3月31日

3. 助成額

1,000,000円 (助成件数1件)

4. 助成対象事業

これまでアーツサポート関西「上町台地現代アート創造支援寄金」からの助成を受けて制作された別紙記載の作品およびリサーチ等を一堂に展覧する展覧会(あるいはそれに類する事業)の企画・実施運営。
なお、実施場所は大阪市内とする。

5. 助成対象者

上記の事業を行う個人・団体

6. 審査方法

アーツサポート関西 評価・審査委員(非公表)が審査を行います。

7. 審査基準

1. 上町台地の特性を引き出すテーマ設定と、それを効果的に表現する方法が講じられているか
2. 個々の作品の魅力を引き出し、また安全に展示できる方法が考慮されているか
3. 作品を展示するための適切な会場が確保できているか
4. 資金、日程、作業労務的な部分において実現可能性があるか

8. 応募方法

所定の申込書でお申込みください。

その際、展覧会のテーマ、会場、展示方法、準備計画などを示していただきます。

- ①必ず所定の申請書に必要事項を記入してお申込み下さい。
(申請書はアーツサポートのホームページからダウンロードしてご使用ください。)
- ②必要に応じて申請内容を補足的に説明する資料を添えてください。添付する補足資料はA4サイズで片面10ページまでです。ただしパンフレットや図録など製本されている資料はこれとは別に添付が可能です。
- ③申請書類は必ず、郵送か宅配便等でお送りください。直接事務局に持ち込むことはできません。
- ④封筒の表に必ず「ASK 助成申請書類在中」と明記してください。

- ⑤同一団体・個人からの申請は、原則 1 件のみとします。また公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会が行う日本万国博覧会記念基金助成との重複申請はできません。
- ⑥申請書類は原則、返却いたしません。パンフレットや図録など、返却を希望する場合はその旨明記してください。

申請書類

- ・ 申請書 1 部
- ・ 申請の内容を補足的に説明する資料（必要に応じて添えてください）
- ◆ 申請書に記入された個人情報、「公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会個人情報の保護に関する基本方針」（当協会ホームページ掲載）に基づき、利用させていただくとともに適正に管理します。

送付先

〒530-6691

大阪市北区中之島 6-2-27 中之島センタービル 29 階

公益財団法人 関西・大阪 21 世紀協会内

アーツサポート関西 事務局

Tel: 06-7507-2004

※封筒の表に必ず「ASK 助成申請書類在中」と明記してください

9. 審査結果

最終選考結果は申請者に書面で通知します。

選考の経緯等についてご質問に応じかねますのでご了承ください。

10. 助成金の支給

活動が実施されることの確認が出来た時点で支払います。

11. 実施報告書

助成活動の終了日から 2 ヶ月以内に実施報告書と決算書を提出していただきます。なお、実施報告書および決算書が期限までに提出されない場合は、助成金を返還していただくことがあります。

12. その他

- ①アーツサポート関西が派遣する事業評価者に対して、その評価を行うために必要な鑑賞（報告会）等に関して便宜をはかっていただきます。
- ②助成を受けたアーティスト等と寄付者とが交流するパトロンプログラムにおいて、受入プログラムをご提案いただき、寄付者と交流を図っていただきます。

◆詳細・不明な点につきましては、事務局までお問合せ下さい。

アーツサポート関西事務局（公益財団法人 関西・大阪 21 世紀協会内）

Tel: 06-7507-2004（10:00～17:00 土・日・祝日を除く）Fax: 06-7507-5945

Email: ask@osaka21.or.jp

アーツサポート関西「上町台地現代アート創造支援寄金」助成 助成を受けたアーティストおよび助成対象活動について



2018 年度

松田 壯統 Masanori Matsuda

活動名「生と死をつなぐ場所と人々」[リサーチ活動]

1982年兵庫県生まれ。2009年 東京芸術大学大学院 美術研究科 先端芸術表現専攻修了。2017-18 ポーランド美術振興財団在外研修員としてアイルランドに滞在。2019-2021 文化庁在外派遣としてポーランドに滞在。阪神大震災により自宅が倒壊し、崩壊した壁の向こうから差し込む光を経験。そのイメージを原点に、人々の信仰・祈りなどの行為や、太陽や魂などの表象を手掛かりに、多角的なリサーチと表現によって、身近なものから普遍的なものにいたる喪失されたものの存在およびそれに向けられた人々の思いを浮かび上がらせる方法を模索。

助成対象となった活動「生と死をつなぐ場所と人々」(2018年度助成)では、上町台地に所在する浄國寺の域内にある、その表象的意味も設置された経緯も不明である動物のイメージが彫られた石柱の断片を手掛かりに、上町台地にまつわる歴史的、文化的、地誌的な広がり創造的に想起させるアートのアプローチを構想。その成果を2019年秋に浄國寺で行ったトークイベントで発表した。

2020 年度・2021 年度

湯川 洋康 Hiroyasu Yukawa

活動名「厄災・信仰・美術～上町台地の祈願の歴史」[リサーチおよび作品制作活動]

1981年大阪府生まれ。2012年よりYukawa-Nakayasuとして活動。歴史や習俗や習慣をもとに、社会や身体、日常に内在している営みや現象を視覚化する作品を制作している。2018年にThe 12th ArteLaguna Prize 大賞受賞(Arsenale, ヴェネツィア)、2017年に『Japanese Connections』(Nikolaj Kunsthal, コペンハーゲン)など。近年では、2019年からアートハブ TRA-TRAVEL の共同代表を務め、2020年『ポストLCC時代の』(京都芸術センター)のキュレーションを手がける。

助成対象となった活動「厄災・信仰・美術～上町台地の祈願の歴史」(2020年度リサーチ、2021年度作品制作)では、疫病や自然災害など人々にふりかかる厄災とそれに宗教(はどのように)に応じてきたかという問題意識のもと、西方浄土信仰のある四天王寺を中心に、厄災と宗教の関係について、歴史文献や様々な文化的・美術的な表象などを広範囲にリサーチし、それをもとに絵画、立体、映像など様々な作品を制作した。

2022 年度 (予定)

笹原 晃平 Kohei Sasahara

活動名「ダイアゴナル・ワークス -上町台地における「斜めの線」を探る一連の活動および展示形式の拡張」[リサーチおよび作品制作活動]

1984年東京都出身、大阪府在住。2009年 東京芸術大学美術学部先端芸術表現科卒業。周辺環境への取材や場の関係性に関する考察を通して、空間や場の構築を行い、インスタレーション作品として提示する。様々な方法論を介した制作活動を行う一方、一貫して人間の生活を探求することで、美術のみならず人類学や建築学など総合分野への接続を試みる。現在、Super Studio Kitakagaya レジデンスアーティスト。

助成対象予定の活動「ダイアゴナル・ワークス -上町台地における「斜めの線」を探る一連の活動および展示形式の拡張」は、上町台地についてこれまで行われてきた学術調査や芸術表現をふまえ、それらをダイアゴナル(斜め方向)に横断しながら参照しつつ、これまでと違った見方を探り出し、そこから現代美術表現の可能性を探るフィールドワークおよび作品制作・公開からなるプロジェクトである。特に、上町台地を巨視的とらえる視座と、そこに生きる人々の生活の微細な視座の双方を、作品制作という観点で斜断していくことに意識を向けていく。

2022 年度 (予定)

兼子 裕代 Hiroyo Kaneko

活動名「しんとく問答 -言葉と写真」[リサーチおよび作品制作活動]

青森県生まれ。ロスアンゼルス在住。1987年明治学院大学フランス文学科卒業、2003年米国サンフランシスコ・アート・インスティテュート入学、2005年同大学院卒業後、サンフランシスコおよび東京にて写真家として活動。2016年より常勤/非常勤講師として、UCデーヴィス、デザンザ・カレッジ、サンタ・クララ大学(いずれもカリフォルニア)で教鞭をとる。現在、カリフォルニアを拠点に活動している。

助成対象予定の活動「しんとく問答 -言葉と写真」は、東京から大阪に単身移り住んだ小説家・後藤明生(1932-1999)が部外者の視点から見た身の回りの大阪の日常をつづった短編エッセイ集「しんとく問答」において、文章中で言及されているにもかかわらず掲載されていない17枚の「不在の写真」を、写真家の兼子が大阪で実際に後藤の足跡をたどりながら追体験し、それらをワークショップの参加者とともに写真などの作品として再構築していくプロジェクト。

※アーティストおよび作品の詳細については、アーツサポート関西事務局までお問い合わせください。